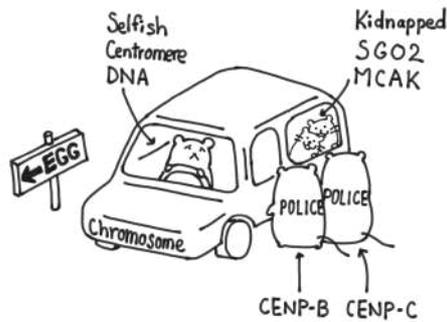


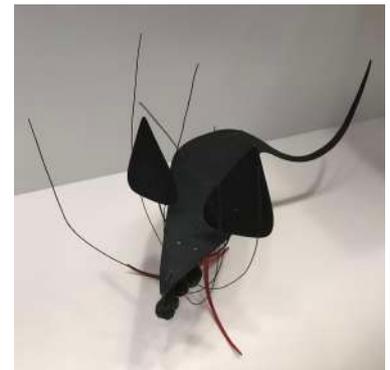
2015年の夏より、University of PennsylvaniaのPhD課程(生物学)に在籍する久門智祐です。5年目夏から、5年目冬の現在に至るまでの経過を報告します。



利己的なDNAが誘拐した子ども(SGO2とMCAK)とドライブすること(染色体が卵に行きやすくなること)を防ぐ警察官たち(CENP-BとCENP-C)という論文になりそうです。

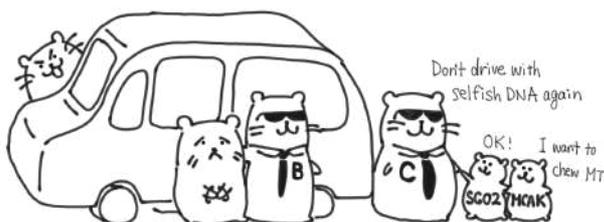
そろそろ卒業が近づいてきました。いろいろと大変でしたが、論文の話もまとまってきました。総説を書く話も出てきました。論文一本と総説一本を出して、ふたつをまとめて少し書き足して博論にして卒業という流れになりそうです。目標は年明けに論文と総説を書き始めて、春先にはアクセプトの目処がついていると良いのですが、レビュアーが何を言い出すか読めないので果たしてどうなるか分かりません。そして次のポストを探す時期にもなってきました。このままアメリカでポストクをするつもりです。たまに「ポストクに来ないか？」と声をかけてくれるのでどこかは拾ってくれると願いつつ、来学期に論文が一段落したらゆっくり探そうと思っています。

先日ワシントンで開催されたASCB|EMBO学会に参加してきました。アメリカの細胞生物学会とヨーロッパの分子生物学会が合同で開催する大きな学会で、相当に大きなものです。以前参加したチェコのマウス学会ではデータがまだ揃っていなかったのが、バラバラのピースをどう説明するか非常に難しかったのですが、今回はある程度データが貯まっていたので、論文を書く前の様子見ということで、様々な説明の仕方を相手の反応を見ながら試しました。いくつか試した結果、反応は上々だったので、仕上げの実験をしたら論文が書き始められそうです。学会がワシントンで開催されたため、美術館や博物館、動物園が無料で行けて、そちらも楽しかったです。



現代アートなネズミ

前回の報告書で「冬に大きな学会がワシントンであるので、その頃までには論文のメインのデータを得られたらいいなと考えています」と書きましたが、なんとかそのようになりました。いまのところ報告書で宣言しておく与实际そのようになっているので、ゲンを担いで次の報告書までには論文と総説と次のポストに目処が付いているようになっていけばいいなと考えています。ディフェンス(博士課程最後の試験)の日程は変に焦らない方がいいと聞いたので、卒業自体は夏以降になりそうな予感がしています。



イラストはUPennの5つの研究室が合同で開催する研究発表会で使用したものです。好評でした。奥で悪い顔をしているネズミは逮捕されたネズミに取って代わる新しい利己的なDNAです。警察とのイタチごっこは永遠に終わりません。